



「ペアレミアフェスト」での青空おはなし会。

図書館力 紫波町図書館 岩手県紫波郡紫波町

“まちづくりのエンジン” として、人と人を繋ぐ

紫波町(しわちよう)は盛岡市と花巻市のほぼ中間に位置する人口約3万人の町。2012年に町民待望の初の本格的図書館が開館し、今年で5年目を迎えた。農業支援や児童サービス、企画展示やイベントにも力を入れる注目の図書館だ。

「地域の人に寄り添う、頼もしい図書館でありたいですね」と司書の手塚美希さん。



県内屈指の桜の名所として知られる城山公園から、すぐ脇を流れる北上川とは反対のほうへ車を走らせると、5分ほどで官民複合施設オガールに着く。オガールについては、本誌第2号で詳しく紹介しているが2012年(平成24)の開業以来、来場者は増え続け、今では町内外から年間80万人以上が訪れるという。そのオガールの中心的な役割を担う施設が「紫波町図書館」なのだ。

蔵書は約9万冊。すべての世代の「知りたい」「学びたい」な企画展だけでなく、「本先案内人」によるトークイベント「面白い本と出会う方法」や、飲み物もおしゃれな自由な空間のなかでゲストのトークを楽しむ「夜のとしよかん」など、



3 地元の木材をふんだんに使った明るい館内。4 「夜のとしよかん」から。船岡篤職人、木戸良平さんによるトーク。

イベントの開催にも積極的に、地域に根ざした企画展だけでなく、実際に訪れると、図書館を中心に地域が繋がっているのを実感できるはずだ。紫波町図書館の司書を務める手塚美希さんは「図書館が『まちづくりのエンジン』になれたらいいなと思っています」と言う。「図書館はさまざまな情報が集まっているところですので、人も情報と捉えることで、人と人も繋ぐことができばうれしいですね」

イベントの開催にも積極的に、地域に根ざした企画が充実している。盛岡の地ビール企業ペアレミア醸造所とタイアップしたイベントでは、司書による青空おはなし会も行った。「中には面白い物をしにオガールへ来て、図書館だと知らずに入ってくる方もいらっしゃいます。そういう方にも好評なのがマルシェ関連のコーナーです」

マルシェ関連のコーナーとは、紫波町図書館と隣接する「紫波マルシェ」で扱う野菜のレシピ本を配置したコーナーのことだ。

（芹澤健介）



1 マルシェのPOPで紹介したレシピコーナー。2 隣接する「紫波マルシェ」と連携し、季節にあわせた農産物を使ったレシピ本を紹介。

ど、趣向を凝らした企画が充実している。盛岡の地ビール企業ペアレミア醸造所とタイアップしたイベントでは、司書による青空おはなし会も行った。これらの取り組みが評価され、「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー2016」の優秀賞4館の一つにも選ばれている。かつては図書館のなかった町にはじめてできた紫波町図書館。いまでは住民から「町の宝」と言われるまでになったが、今後もその重要性はさらに増していくはずだ。